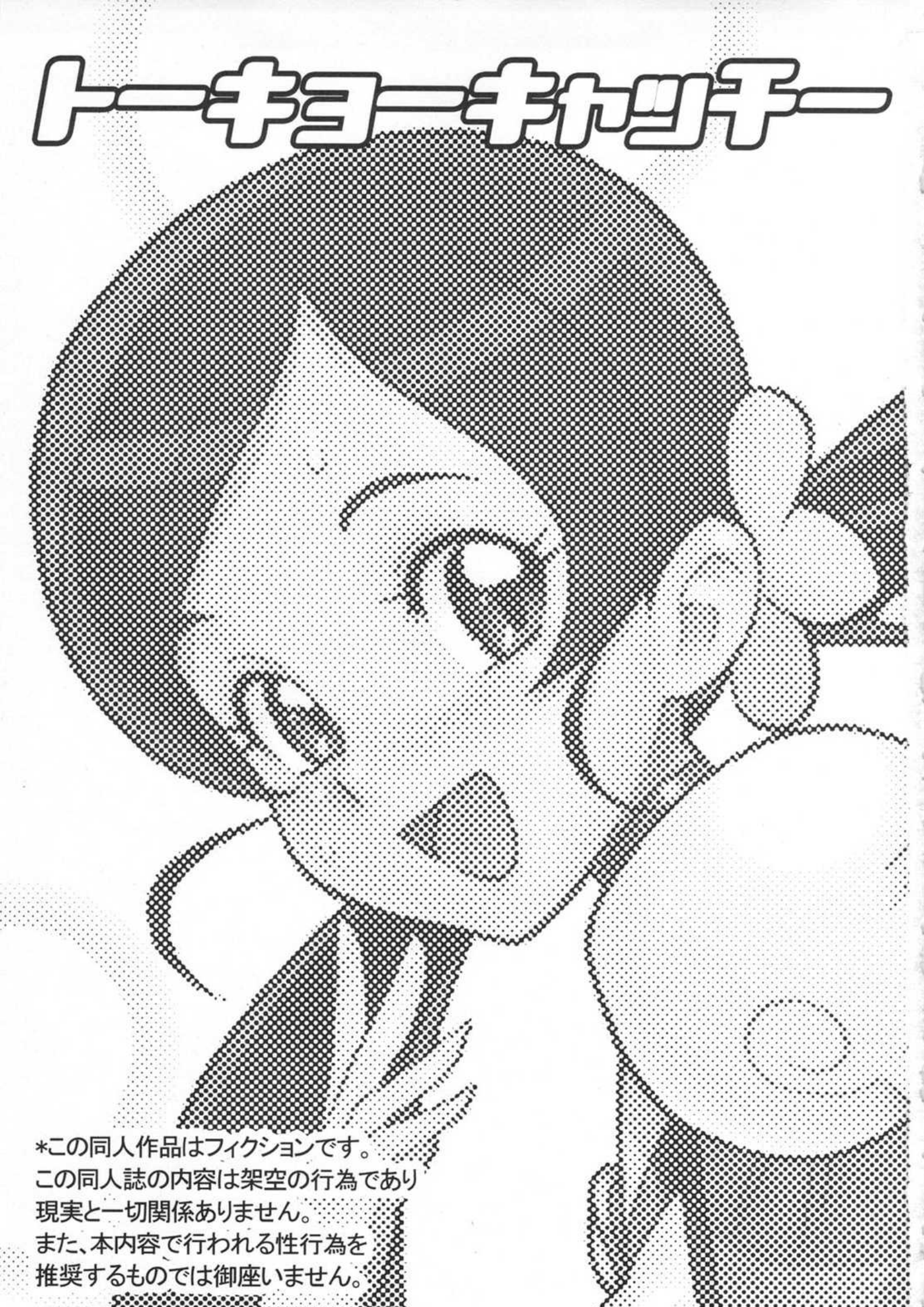
トーキョーキャッチー
あだるとおんりぃ！
成人向
同人誌
FOR ADULT ONLY
PRESENTED BY NIKURINGO (BEEF&APPLE)

トーキョーキャッチー



*この同人作品はフィクションです。
この同人誌の内容は架空の行為であり
現実と一切関係ありません。
また、本内容で行われる性行為を
推奨するものでは御座いません。

★はじめに★

どもども、兄弟です。

さて、今回のネタは「ハートキャッチプリキュア」
兄貴が企画出した本でイラスト＆テキストの
構成となっております。

久々に放送当初から気に入った作品だったので
本がつくれて嬉しい限りです☆
まぁ読まれる方の嗜好にあうかどうかは
また別の話なんですけどね。

まぁあとはアレです。

少しでも楽しんでもらえたら
と思います。

にしても久々の猛暑はシンドイ・・・・
コレが「夏バテ」…「夏バテ」なのか？

カクガリ兄弟

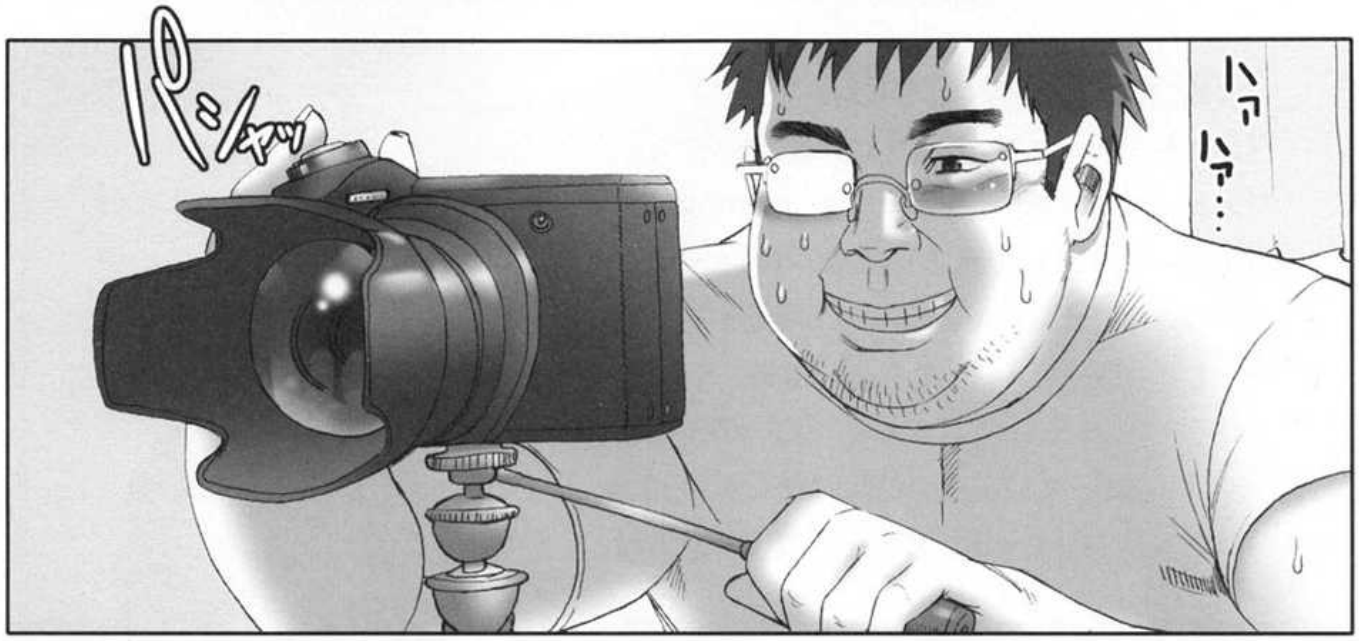
2010/08
（はやく「BATMAN THE BRAVE & THE BOLD」
の第2シーズン始らないかな～）

↑うろ覚えコッペ様「ラオウバージョン」

「わぁ、すっごいよく撮れてますね」
「えへへ…さっすがあたしたちの専属カメラマンってとこだね☆」
「ええ、本当に。あ、ほら…！　このえりかの顔なんか、すっごくカワイイですっ♪」
「あれれ？　こんな写真、いつの間に撮ったの？」
「あ、これは、その…えりかが寝ているときに」
「へぇ！　全然知らなかったなぁ！　まあ、アイツもあたしたちも
カメラマンとモデルって呼ばれるにはまだ早いけど、
それにしちゃーずいぶんイイ感じに仕上がったよねー☆」
「はいっ！　えりか…また撮影会やりましょうね☆」

「あれれー、なんかノリノリじゃない？　つぼみったらあんなに恥ずかしがってたくせにw」
「え、ええっ！？　そ、それは…」
「やぁ！　いつにも増して楽しそうだね、二人とも……ファッション部のお話かな？」
「あっ！　生徒会長さんっ！！」
「え、ま、まぁね☆」
「一体何を見ているんだい……？　お、アルバムか」
「そ、それはぁ……」
「あ！　ちょっとストッ……」

「どれどれ……ん？　これは！？」



このアルバムに載せている何十枚もの写真……
それを撮影したのは、ちょうど一週間前のことになります。
あの時のことを思い出しただけで、私、実はすっごく恥ずかしいんです…

「ぶふふふふw　やっぱり二人にはプリキュアの格好が一番よく似合うよ。まるで本物みたいだぁ…」
「えっ、あっ、その……」
「そりゃあ、まぁねぇ…w」

この人は、えりかがネットで知り合ったというカメラマン志望のお兄さん。
えりかはモデルとして少しでも成長するため、
そして私はこの人見知りを直すために、こうして撮影会を開くことになったのですが……

「…でも、こんな所に入るのはやっぱり緊張してしまいます…」
「へ？　こんなとこってラブホ？　このラブホ、前の撮影会でも使ったじゃんw」
「だ、だから緊張しているんですよぉ～！」
「ふーんw　つぼみ、写真撮られる前から緊張しちゃってるわけ？w」
「いや、あの、私はただ…」
「だいじょーぶだってw　気楽にいこうよ～」
「は…はいっ！　で、でもぉ……うっ、うぅ…！　やっぱり緊張しちゃいます……」
「スタジオ借りるお金もなくってゴメンね。ぶふふふふw」
「あ、いえ…そんなつもりで言ったんじゃ…」
「つぼみったら、コイツに敬語とか使わなくっていーからw」
「あ…相変わらず容赦がないなぁ、えりかちゃんは」
「お姉ちゃんみたいなスーパーモデルを目指すんだもん！　こんぐらいの度胸と勢いは必要なのっ！
てゆーか、そんぐらいの気持ちがなきゃ、〈こんな所〉に来ないでしょ、普通w」
「で、でもここならベットもテレビもあるし、二人ともリラックスして
撮影ができるんじゃないかなって…思ったんだよ」
「まーそりゃそーだねー☆　疲れたらこないだみたいにバタンッ、キューって
すぐお昼寝できるわけだしw　それも魅力かも！　……ねっ、つぼみ☆」
「えっ？　は、はいっ！　……そ、それはそうなんですけど」

そう答ながらも、私はあまりの緊張でお兄さんの顔を真っ直ぐ見ることさえできません。
だって、この間だって、えりかが寝てる時に……まさか、その、〈あんなこと〉になっちゃうなんて…

「ん？　どうしたんだいつぼみちゃん？　緊張してるのかな」

そうやって笑うお兄さんの口元が、この前のように、その……
ちょっぴりエッチに感じてしまうのは私の考えすぎなのでしょうか？

「じゃあ、そろそろ撮影開始しようか！　さあ、笑って笑ってぇ～」

パシャッ！
「あはっ☆　つぼみってば、もっとリラックスだよw　よーし！　今日も楽しもうねぇ☆」
「あ…楽しむ……は・はいっ……そうですね、えりか……」
「ふふふ…今日もふたりのカワイイ姿…た～っぷり撮ってあげるからねぇw」
パシャッ！　パシャパシャッ！
あぁっ…シャッターの音がする度…私の頭が…身体中が…ぼぅっと熱くなって……
お兄さんっ、見透かすみたいに私を見て…ヤらしくっ…わらってる……

「ほら…つぼみちゃんこっち来て……この前みたいなエッチな格好になろっか…？」
「あ、え？　いやぁ……」
「大丈夫だよ……えりかちゃんなら撮影で疲れてぐっすり寝ちゃってるし…ほらほら…」
「いや、そーゆー意味じゃなくて…あっ！　ああっ……」
ジイイいいッ……
「フフッ、ジッパー付けといて正解だったなぁ…ボクのお手製改造コスのおかげで、
つぼみちゃんのカワイイピンクのの乳首が丸見えだw」
「そんなにじろじろ見ないでください。私、恥ずかしいんです…」
「ふふw　カワイイ♪　でもおかしいな…この間はもっと恥ずかしいことして、それぜーんぶ写真に
撮られちゃったのにねぇww
　つぼみちゃんの裸を見たことのある男は、世界中でボクしかいないんだよね？」
「あ、当たり前です……」
「当たり前？　なんか嬉しいな☆　ふふw　つぼみちゃんのカワイイおっぱいでコーフンして、
ボクのおチンチンもこんなに大きくなっちゃってるよ…ほら、見てごらんw」
「え…あ…いやぁ…」
「いやぁ、じゃないでしょ？　この間だってつぼみちゃん中〇生のくせに…お父さんやお母さんにナイショで、
あーんなエッチなコトをしちゃったんだもんねw」
「え、エッチなこと……だって…あれは…お兄さんが…うぅ、やっぱり恥ずかしいです…」
「恥ずかしい？　じゃあこの前はイヤだったの？　あんなに気持ちよさそうにしてたくせに」
「イヤじゃないですけど…」
「だよね。そうじゃなきゃ、今日もこんな所に来るわけないもんね……ホントは期待してたんでしょ？」
「そ、そんなこと…」

「ウソはダメだよ。ここに来て何されるかなんて、簡単に想像つくでしょ？」
「ちょっぴりは…で、でも！　ホントのホントにちょっぴりで…」
「ちょっぴり？　うんうん、正直者になってきたねw　よし、じゃあ顔を近づけて……」
「…は、はい」「ンチュッ☆　んっ！　ムチュ・ムチュムチュ・じゅるッ！　ぷはっ…はぁはぁ」
「つぼみちゃん、最初のチュウより全然上手くなってきたねw　ぷちゅっ☆」
「んちゅっ…はぁはぁ…そっ・そんなこと……」
「いやいや、もうすっかりエッチな大人のチュウをマスターしてるよw」
「やだぁ…」
「え、イヤなの？　そんなに目をとろんとさせてるくせに…どれどれ、下のほうはどうなってるのかなw」
「ひゃッ！　…あっ・そこっ・触っちゃっ・いやっ…！」
「ん？　今触ったばっかなのに、もうぐちょぐちょじゃんw　いやらしい大人のチュウで感じちゃったんだね」
「あっ・そっ・そんなっ・ことはっ…んんっ♪」
「無いこと無いでしょ？　お口の中ボクの舌でベロベロされて、つぼみちゃんは、おまたまでとろんとさせちゃったんだw」
「あっ・はっ・あんっ♪　いやっ・言いたくっ・ありませんっ…！」
「恥ずかしがってばっかじゃダメだよ。つぼみちゃんは、その性格をを直しに来たんでしょ？　ほら、早く！」
「でっ・でもぉっ……ぁ……はぃ……そうです……」
「よし！　じゃあつぼみちゃん！　君の方からボクにキスしてごらん」
「えっ？　そっ・そんなっ……」
「自分からチュウするの恥ずかしい？　でも、がんばって。つぼみちゃんからの最初のチュウ…ボクにちょうだい☆」
「…はい…チュッ・ムチュ・ブチュッ……♪」

「ムチュッ・グチュッ！　ジュル…」
「あ、あんなにチュウは恥ずかしがってたのに……すっごいイヤらしいよ、つぼみちゃんw
今日も美味しそうにチンポしゃぶってるその姿、しっかり撮ってあげるからね☆」
「ジュルッ…ジュルジュルッ…い、いやぁ…撮ったらだめぇっ……」
「いいから続けて…ほら、しっかりカメラに目線も送る！！　チンポ咥えてる口もしっかり映るようにね！」
「じゅるっ・ぐちゅぐちょぐちょ……ふ、ふぁい…分かりまふた…ジュルっ！　こっ・こうですかっ？
はっ・恥ずかしいっ・いやんっ！」
「ぶふふw　普段の大人しい姿とはまるで別人…まるでプリキュアの変身みたいだね☆　えりかちゃんも、
まさか自分が寝ている間につぼみちゃんがこんなイヤらしい事してるなんて、夢にも思ってないだろうねw
もし今起きてきたら、えりかちゃんにケーベツされちゃうかな？ww」
「そっ、そんなっ…見られるのはっ・絶対…やですっ……ムチュッ・ジュルッ♪」
「ぶふふw　それでもおしゃぶり続けるんだw　……ねぇねぇ、ぼくのチンポ臭い？」
「く、臭いっ・れふっ…！」
「意外とヒドいこと言うなぁw　でも、臭いとか言ってるくせに、美味しそうに舐めてくれるんだねw」
「クサいっ…けどっ、あんまり…イヤじゃ…ないっ♪　ジュボっ！　ジュルジュル……」
「あw　ああ、あああ……気持ちいいw　サイコーだよw」
「チュパッ…も・もうすぐ…イクんですかぁ？」
「うーん、どーせイクなら締まりのイイつぼみちゃんの尻の穴でイキたいな☆　お尻の穴…
イヤじゃなかったでしょ？」
「は、はい…」

すぃ～～～ッ
ハァ
ハァ…
ズッポ
ニュポ
グイッ
ギッシ
ギッシ

ジュボッ！　グチュ・グチュ・グチュチュチュ……
「んんんっ☆　おっ・お尻のっ・穴っ・あっっ♪　熱いですっ♪」
「ふふふw　ほらよく見て！　つぼみちゃんのお尻の穴にボクのオチンポ入ってるよw　ちゃんとセルフタイマーで撮影もしてるしっ♪　……クッ…ケツマンコ犯るのッ・まだ二回目だからッ……すっごいキツキツだねッ☆」
「あっ・いやんッ・おかしくなるッ♪　お尻ッ♪　気持ちイっ♪　おちんちん気持ちイイですぅッ♪♪」
グニュッ・グッチュ！　グチュグチュ…ジュブッ！　グチュムチュムチュ！
「はぁはぁッ…そのちっちゃいオッパイも、処女まんこも…全部カワイイよつぼみちゃんw」
「あっ・んっ・はいぃっ♪　ありがとうっ…ございますぅ♪　でもあのっ・もう少しっ・静かにぃッ…」
「え・なに！？　ゼンゼンきこえないなッーー！！　あはっw　肛門犯されてッ！　すっごい悦んでるねぇ！！」
「あっ♪　そっ・そんなっ…あんまり大声だすとっ…えりかっ・起きちゃうぅっ…んッ！　激しッ♪　だめぇッ♪」
「ふふッw　見られたらどうする！？　中〇生のッ！　つぼみの肛門ッ！　コ～モンサイコーだぞッ！！」
「イジッ・わるぅッ……絶対…いやぁっ！　だからっ…あんっ♪　静かにっ…　お願いしますぅ…あん♪」
「ウンコの穴チンポでホジられてッ！！　ほら悦こんでるスケベな顔みられちゃうぞッ！！！」
「あぁあんッ♪　はっ・ソコきもちイっ♪　あっ♪　あッ♪　だめぇっ♪　え、えりかっ！　起きちゃうっ～ッ！！」
「……実は、起きてぜーんぶ見てたりしてwww　すっごいカワイイよ♪　つーぼーみっ☆」
「え…えりかっ！？」

ピチャッ……グチョ・グチョ・グチョグチョ……

「んっ！　あっ・アンタってホント汗くさいわね…w」
「昨日お風呂入ってないからね☆　ぶへへw」
「そっ…そんなレベルの匂いじゃっ・ないわよっ♪」
「え？　えりか？　その、これは一体…？」
「へへーんw　あたし、ずっとコイツに撮られてたんだよ。何にも知らないわけないじゃーん」
「え、ええッ！？」
「コイツかなりの変態だからさー、カワイイ写真撮ってあげるよーとか言いながら、
　撮影したあと、いつもこーやってスケベなことしてるんだよっ！　ねぇー？w」
「実はそーなんだぁ…ムチュッ☆　レロッ・レロレロ～～」
「ええっ、そんな……そんなのって…エッチすぎる」
「んっ・むちゅっ・ぷちゅっ！　…ふぅ、驚いた？　いや、こいつに始めて撮影されたときさぁ、
あんまりコーフンしてるもんだから誘ってみたのね、そしたらまぁあっさり手だしてきてw」
「そうだったんですか…」
「んっ♪　んんっ♪　でもコイツ、今は偉そうなことしてるけどっ・あたしとヤルまでっ・どっ
・童貞クンだったんだよねーw」
「え、えりかちゃん！　それは秘密にしてって言ったのにぃ」
ピチャッ・グチョ・グチョグチョッ！
「…あっ♪　あんっ♪　とか言いつつッ・人のっ・おまんことおっぱいっ・イジってんじゃない
わよw」
「…き、気持ちいいかぃ？」
「ばっかじゃないのっ？　んっ♪　普通だからっ！　…んんっ♪
この前はずっとっ・寝たふりしてたけどっ・今日はっ・私ともしなきゃっ・んんっー♪　ダメっ
…なんだからっ・ねっ！」
「…ふり？　えーっ！？　えりか、この前の時も起きてたんですかー！？」

グチュッ！　クチュクチュ…！

「んんっ♪　…え？　そうだよw　んっ・てゆーかっ・コイツこの前アンタとヤったあとコーフンしちゃってさーw　あの後別のホテル行ったら…あぁんっ♪　朝までコイツに…あっ♪　やられちゃったんだからw
「あっ、朝まで…！？」
「こっ・こんな感じにねっ☆　もーうコイツってばブタみたいに喚きながら何回でもイクのw」
「ぶ、ブタ！？　えりかちゃんはすぐ酷いことを言うんだから…」
「何言ってんの？　ブタとか言われるのがっ…好きなくせにw　ほらっ…酷いこと言われながらぁ…」グチュ！　クチュ・ジュルッ・ジュルジュルッ♪
「……おチンポをこーやって…そんでもって、こーされるのが好きなんでしょw　この変態w」
「あっ！　ああっ…そんな強くされたらイっちゃうよぉw」
「…勝手にイってなさいよw」
「え、えりかちゃんの弱いところ知ってるんだもんね……　クリちゃんのこの辺と…乳首コリコリされて……乱暴にされるの好きだよね……ぶふw」
「うっっ♪　あっ♪　ちょー生意気っ♪　なんかっ・ムカツクっw」
「ん～　そう言いながらオマンコぐっちょりw　……ほ～らっ、糸引いてるよっ☆　イキたい？　ねぇねぇ、イキたい？w」
「ホント…アンタってイチイチねちっこいんだからw　だからこの前まで童貞っ…だったっ・のよ！」
「二人で、朝までこんなこと…」
「なんかアンタのこと思い出したらコイツっ・コーフンしちゃったみたいでさーw
　今日はめんどくさいし三人でやろうと思ったんだw　つぼみもそのほうがいいよね？」
「え？　そんな…」
「いやなの？　なら、あたしがコイツのこと独占しちゃうけど？」
「それは、その…」
「つぼみ♪　つぼみも一緒にやろ？」
「…は、はいっ」

「二人のこんな写真が撮れるなんて…ゆ、夢みたいだよぉ……」
パシャ☆　パシャパシャ☆
「何このポーズ…よくこんなの思いつくわねw」
「えりかちゃんと会うまで童貞だったんだからしょうがないじゃないか！」
「きゃははw　それちょーみじめなんだけどw」
「どうしましょう…えりかぁ、やっぱり私…恥ずかしいです」
「大丈夫だって。つぼみ、すっごくカワイイ♪　きっとイイ写真に仕上がるよw」
「うぅ…それが恥ずかしいんですよォ」
「カワイイよぉ！　二人とも本物じゃないのに、まるで、本物のプリキュアみたいだよォ」
「独り言はいいからちゃんと撮りなさいよ！　全国のアイドルのプリキュアが…コホンッ！
…カワイイ中〇生の女の子が、二人も揃っておまんこさらしてるんだから！」
「分かってるよ…ちゃんと撮影してるよ…二人のおっぱいもおまんこも恥ずかしがってる顔も全部
……はぁはぁ……」
パシャリ☆　パシャッ・パシャパシャ…
「私、えりかと一緒に、こんな格好で、こんなポーズで…写真撮られてるっ」
「そうだよ～えりかたちは、こんな変態におまんこの写真撮られてるんだよ～w
コイツ、きっと家に帰ったら速攻であたしたちをオカズにオナニーするんだからw」
「こんなに可愛くてエッチな子たちの写真が撮れたんだ…ボク、二人の写真をオカズに死ぬまでオナるよ。
二人が高〇生になっても、大〇生になっても、ママになっても…ずっとずっとシコり続けるよぉ」
「きもちわるw」
「私がママになっても…そ、そんなっ…そんなのって」
「あははw　つぼみ、恥ずかしがりながら…すっごくコーフンしてるね☆」
「そんなっ…でも、なんででしょう…？　そのことを考えると…あんっ♪　見られてるだけで、
触られてないのに…おっ…ぉまんこ……すっごく熱くて…！」
「そんなつぼみちゃんのおまんこはどんな匂いなのかな？　…クンクン。
ぷふふw　ちょっとおしっこ臭いなぁw　やっぱりまだ処女だからかな？」
「おしっこ臭いなんて…私、トイレのあとはちゃんと拭いてますぅっ……」
「でも、イイ匂いだよぉ。中〇生のおまんこって感じの匂いだぁw」
「そ、それじゃあたしのおまんこの匂いは何なのよ…！」
「ん？　えりかちゃんのおまんこは…クンクン♪　はあぁ…こっちのおまんこもサイコーだよぉ。
汗とおしっこの匂いもするけど、色んな男の子とエッチしてきた大人の香りがするぅ！」
「お姉ちゃんみたいなスーパーモデルになるには、若いうちから色んなコト体験しなきゃだもん！
…ってちょっと！　いつまで匂い嗅いでるのよ、このブタ！」
「えりかちゃん、またボクのことブタって言ったぁ」
「てか、アンタはブタって言われたらコーフンするタイプの人間でしょーがw
カメラは三脚に立てて…ほら、アンタは横になりなさい！」

あぁぁぁっ…
はぁ…
ぴくッ
ジュッ
パカ～ッ
ぴくッ
ぴくッ
ハァハァっ…
あはっ♥
ぷ～ん
クッ
クッ
もぁ～ッ

ジュボッ！　ブニュッ！　グチャグチャ…

「ああっん♪　さっきからっ・同じ動きばっか…！　ホント、童貞卒業したばっかの男はっ…んっ☆
芸がっ・はぁはぁ……無いんだからッ！！」
「ゴメンよぉ、えりかちゃーん…」
「でっ…どうなのよっ…こんなっ・カワイイ女子中〇生の尻穴にッ・チンポぶち込んでる感想はぁっ？」
「中〇生の汗とかお尻の匂いってすっごいキツくて、臭くて…サイコーだよ」
「うるさいな！　今日は暑かったんだからっ・しょうがないでしょw」
　アンタだってこのだらしなく垂れてるザーメンやらチンカスの匂いがここまで来てっ・ちょーサイアク！
　ほら、どーせこの場面だって後でオカズに使うんだから、ちゃんとあたしをカメラのほうに向けなさいよっ」
「えりかったら、あんな格好でなんてお下品なことを。ううっ…恥ずかしくて、私見てられません！」
「なに言ってんのっ？　つぼみだって…さっきっ・散々やってたじゃんw」
「それは…」
「あはっ♪　あっ…あのさっ・さっき見てて気づいたんだけどっ…
誰かがヤってる姿ってすっごくイヤらしいねw　つぼみもっ・あたしたちの見てっ…ああっ♪　コーフンする？」
「そんな…そんなことありません！」
「え？　でもお股のほう濡れてるよw　やっぱりコーフンしてんじゃんw」
「…やだ！」
「なんかっ・あんっ♪　さっきと逆になって思うけど…見られるのもちょーコーフンするねw
　つぼみもっ…あたしに見られてると思ってたらっ・ドキドキしてたんじゃないのっ？w」
「わ、私は…ただ恥ずかしいだけで、そんなドキドキなんて……」
「ああっんっ♪　えりかっ・こんなブタ男とやってるとこ見られてる！
　尻穴ほられるとこ、つぼみに見られてちょーコーフンしちゃうぅ〜♪」
ジュボッ…ブチュリ・ブッブブー！
「そんなに気持ちいいんですか？　エッチしてるところ見られるのって……」
「あっ☆　うんっ♪　いっ・いいっ☆　ほら、つぼみもボーっと突っ立ってないで手伝ってあげなっw
　このブタ…自分のおっぱい吸われるのも大好きなんだからw」
「おっぱいを…吸われる？　男の人なのに？」
「だから変態なのw　ほらっ…手伝ってっ♪」
「いいんですか…？　チュプッ…レロッ・レロレロッ」
「うあっ！　つぼみちゃぁん…すっごく上手だよぉ！　おっぱい・気持ちいいっ！」あうっ！　ぐふふ…
ぼ、ボクは…変態だからw　もっと…もっと！」

「レロッ・レロレロレロッ……こ、こうですかぁ？？」
「ああっ！　気持ちよすぎて…ボク、イっちゃう…」
「レロレロッ…え!? まだ、イっちゃダメです! だってっ……私が、まだイってないんですっ！」
「こいつブタだから、何回だってイケるよ？　次はつぼみが攻めてもらえばいーじゃんw」

「あ♪　はいっ！　それじゃっ！　レロッレロレロッ・チュパッ…チュパチュパッ！！」
「ああ！！　やばいっ・ボクいくッ…出るうううウ！！」
「あっ・あっ！　ワタシもっ！　いっちゃうッ！　お尻のッ穴でッ・イクゥゥウウウウウうッ！！」

「うっわぁw　見て見てつぼみ～！　さっきあたしの尻穴とつぼみの乳首責めでイったばっかなのに、コイツもうこんなに大きくしてるよーw　どんだけイけば気がすむんだかw」
「スゴいです…こんなに早く大きくなっちゃうなんて……」
「ほらほら、次はつぼみの番だよー☆」
「は、はい…」

ジュボッ！　ブニュニュッ！
「ああぁっ♪　いっ・いいっ♪　もっと…もっと奥まで欲しいですッ！」
「つぼみちゃん、えりかちゃんの影響ですっごく大胆になれたね♪　よかったよかった☆」
ジュルッ・ジュパッ・ジュボッ！　ジュボボボボッ！！
「んんんっ！！　あッ☆　いいっ♪　すっごい気持ちいいですっ♪♪」
「いいっ…ボクも気持ちいい…！　いいぞっ…いいぞっ、つぼみちゃーんッ！」
「あっ♪　あはっ♪　んんっ！　なんでっ…なんでこんなに気持ちいいのっ！？」
ペチッ…ペチッ…バシッ！
「い、痛いッ！」
「痛いのは当たり前だよ…？　お尻を叩かれてるんだからw」
バシッ！　ペチッ・バシッ！　ペチッ……
「あぁっ！　どっ…どうしてっ・叩くのっ…？　あんっ！　いやっ♪　いやぁっ♪」
「中〇生のクセに、尻穴ほじくられて喜んでるような悪い子へのお仕置きだよ…ぶふふふw」
「そ、そんなぁ…」
「ボクはつぼみちゃんには良い子でいて欲しいんだ…ほら、小さい子が悪いことをした時は…どんなお仕置きをされる？」
「お尻を…ペンペンされますっ…」
「そうそうw　正解だよつぼみちゃ……？　あっ・あああっ！！」
「なーにがお仕置きよw　だったらあたしだってアンタのお尻にお仕置きしてあげなきゃ…」
ジュルッ・チュパッ・ジュルジュルジュルジュルッ…！
「ぶへっ！　ぶへへへへへっ…サイッコーのお仕置きだよえりかちゃん！　チンポとアナル…両方にすっごい刺激で…ボク、頭がおかしくなりそうだよぉ…！！」
「もうとっくにおかしいから、心配いらないよw　レロッ・チュルッ・ジュルジュルジュルッ！」

「あんっ☆　あっ☆　はっ☆　ああァァんッ♪　ど、どうしよう……」
「ウッ！　どっ・どうしたのかな…つぼみちゃん？ …アッ！　アアッ…！！　」
「あっ・私…あんっ♪　今っ・すごくっ…気持ちいいんですっ・ああッ…♪気持ちよすぎて…そのっ…」
「チュルッ…♪　つぼみ〜！　言いたいことは、言葉にしなきゃ伝わんないよっ？　チュパッ…
ジュルジュルッ♪」
「…私っ！　んんっ♪　いっ…イってしまいそうなんですっ♪♪」
「ウッ！　ぼ、ボクも……もうすぐ限界なんだよぉw」
「はぁ？　ホントに早漏なんだから。今日だけで何回イってんのよw」
「いっ・一緒っ・一緒にイきましょ……おっ・お兄さんっ！」
「ウン…行くよ…行くぞ、つぼみちゃんっ！　尻の穴に…尻の穴に出しちゃうぞぉぉッ！！」
「あッ☆　はッ♪　イキますイキますぅッ！　イクぅッ！　んんっ！！…ああぁぁぁんんっ♪♪♪」

「あっ…いやっ！　…恥ずかしいっ！　こっ・こんなのって…！」
「ちょっ！　アンタ…終わったからシャワーっ・浴びるんじゃっ・無かったの？」
「二人ともまだまだイキたりないんじゃないかと思ってね☆　ぶふふw　それにお尻の中のザーメン、洗い流すの大変でしょ？w
　だから刺激を与えて……」
「はっ・いやっ！　ダメ…こんなのっ……！」
「ちょっ！　バカっ・こんなことされたらっ…気持ちよすぎてっ…あっ・出ちゃう～！」
「ふふw　だから二人とも、ウンチする時みたいにお腹リキんでごらん☆　しっかり撮ってあげるから！」
ブブブブ……
「あっ・ああっ♪　あんっ♪」
「んんんっ…うぅぅぅ！」
「あ、ちなみに最後の撮影は写真以外に動画も撮るから、二人ともインタビューに答えてねw」
「いっ・インタビュー…ですかっ？」
「おっ・お尻にこんなん付けた状態でっ…何を話せって一のよっ…？」
「ぐふふw　こんなん付けた状態だから二人の話を聞きたいんだよw　じゃ、始めるよ…」
ブブブッ・ブッ・ブブブブブッ！
『はああぁ♪　あっ♪　はっ♪　ああぁぁぁんッ♪』
「はぁはぁ…今日の撮影はどうでしたかー？　つぼみちゃん？」
シコッシコシコシコ…
「ちょ、ちょっとアンタ！　何一人でシコりだしてんのよ！？　バカじゃないの？」
「えりかちゃんはあと！　ほら、つぼみちゃん…ゴニョゴニョゴニョ……」
「えっ？　そんなことっ・言えませ……」
「ちょっ！　何つぼみに耳打ちしてんの！？」
「えりかちゃんはいいから！　今日の撮影はどうでしたか…つ・ぼ・み・ちゃん！」
「今日はっ…お兄さんとエッチなチュウをいっぱいしてっ…あんっ♪　臭いオチンポおしゃぶりしてぇっ…ああっ♪　お尻の穴ぁっ・オチンポハメられてっ♪」
「ヤダつぼみ…　」
「…あんっ♪…えりかと一緒におまんこを広げてっ…おまんこの匂い嗅がれて…！　いっぱいいっぱい3人でっ…エッチなことしてっ…それっ・ぜんぶっ写真に撮られてっ…すっごい気持ちよかったですぅッ♪」
「今日は楽しかったかな？　撮影来てよかった？」
「はぁっ・とっ…とってもっ…楽しかったぁぁぁっ！　来てよかった……ですっッ♪」
「…って！　なっ・なんでつぼみばっかに質問するのよっ…あたしにもっ・しなさいっ・よっ！」
「だってッ……ハァハァ、えりかちゃんこーゆーの慣れてきちゃって、恥ずかしがってくれないんだものw お尻の穴で散々イっちゃって…こんなスケベな中〇生、他にいないよ？　もうケツハメ後のザーメン排泄を録画されるくらい……全然平気なんでしょ？www」
「ちょっ・酷いっ…！　はっ・恥ずかしいにっ…きっ・決まってるでしょっ…そっ・それにっ・黙ってたら……」
「黙ってたら？」
「…我慢、できないんだもんっ！！」
ブッ・ブブッ・ブブブブッ！
「ハァハァ……よーし。じゃあ、そろそろボクもイきたいし…」
「んっ♪　あんっ♪　…私も限界ですぅ！」
「ほら、二人とも…もっとカメラに目線と尻の穴を合わせて…！　そう…そうそう……！
　ほら、笑顔！　もっと笑って！　もっと！！　中〇生のザーメン排泄、一生…永久保存するからねっ！」
「あっ・うぅっ・イッ…いくっ！」
「あぁぁっん！　あっ・あたしも……イっ・イっちゃうよぉ！」
「ぐふふふw　いいよぉ、その顔つき！　角度っ！　ああッ…！　イク！　3人でイクよ！」
『あぁっ！　んっ♪　はっ♪　あっ…ダメっ♪　イ…イクううぅぅぅぅぅ！！！』

ああんッ
ゲゲゲ…
ゲゲゲ…
ゲゲゲ…
ジュブ
モジ
モジ
ムズ
ムズ
ジ〜〜
ジャッ
ジャッ
スポッ
ブピッ
スポッ
ブピッ
ビクン
ビクン
ビクン
ビクン

…そんなエッチなことをしていた時の写真だなんて、私は生徒会長さんに言えるわけもなく……

「ふーん…二人にはそんな知り合いの方がいらっしゃるんだ」
「あ、は、はいっ！　そうなんですよ……ねっ、えりか」
「うーん知り合いというか、ブタというか」
「ブタ？」
「あ、いえいえ何でもないでーすっ♪」
「そうか……ん？　わぁ！　素敵だなぁ☆」
「えっ？」
「な、何が！？」

「この写真の花咲さんの表情、なんかすっごくカワイイ♪」
「え、ほ…ホントですかぁ？」
「うん。それにこっちの来海さんの表情も、普段より大人びて見えるよ☆」
「え？　あはは！　照れちゃうなーw」
「…それに、なによりこの写真の二人、すっごい活き活きしてる☆　きっと……
楽しい撮影会だったんだろうね♪」
「ま、まぁ、それは……」

「じゃあ……今度、僕も二人と一緒に撮ってもらいたいな♪　そのカメラマンの方に！！」

『え……？　ええぇーーッ！？』

カクガリ兄のかく語り

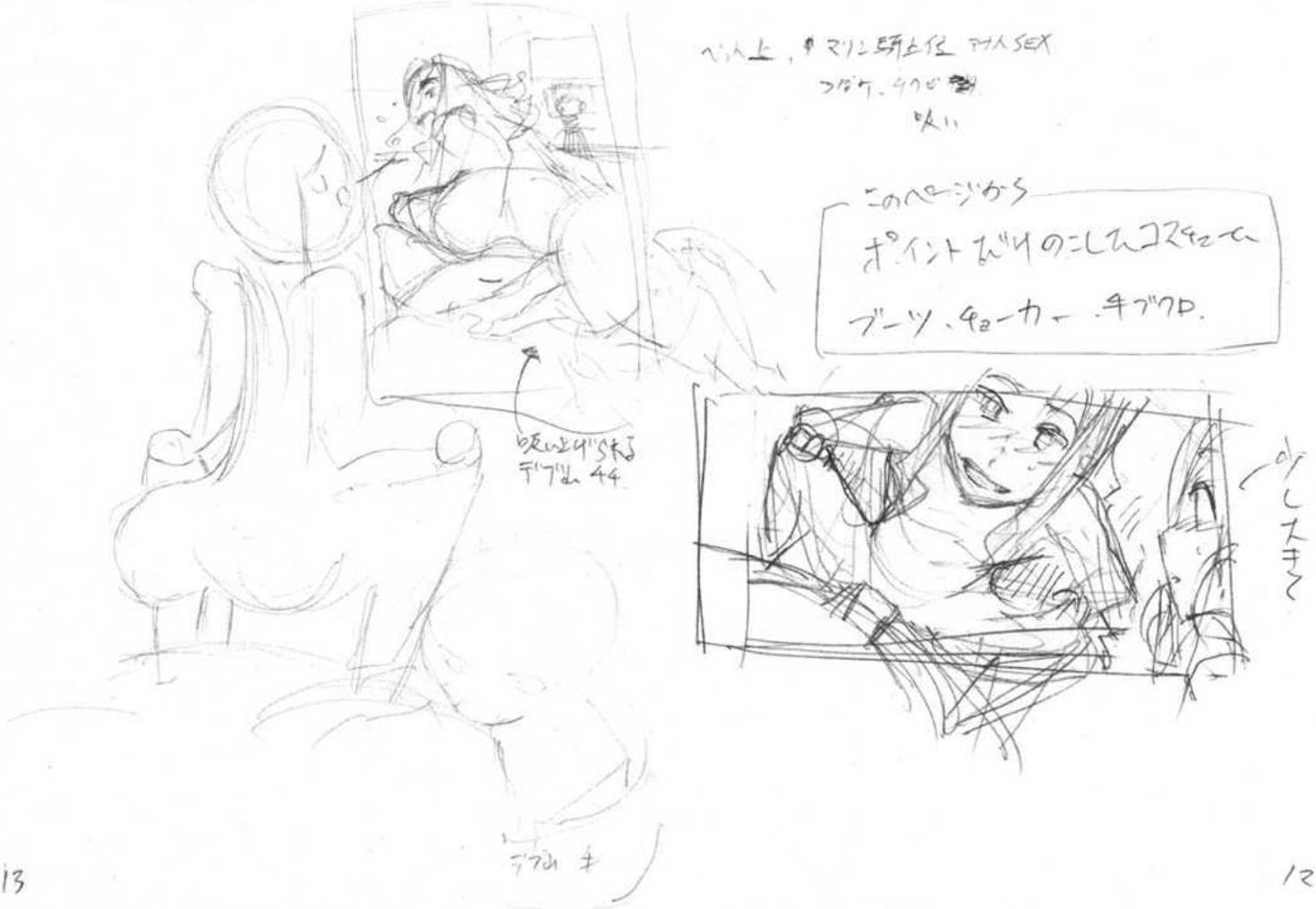
さて、今回のネタ「ハートキャッチプリキュア」
ですが、久々に迷わず
このネタでやりたい
と思った作品です。
ま、それでもプロット面では
色々悩んだんですが（笑）

そんな今年のプリキュアも
夏コミ直前に三人目が登場w

まぁ知人からうっすら噂は聞いていたのですが
デザイン含め、レギュラー昇格の際のドラマも
わからないまま見切り発車的に描いちゃうのもなぁ、
というか、そもそも好きになるかもわからんし……

（いや、それまでの会長のキャラや物語全体のクオリティを
考えれば、下手打つことはないと思ってはいたけど
案の定いいジョインの仕方でした☆）

ということで、当初の予定通り、つぼみとえりかで
本編は構成されているんですが、
まぁちょっとしたネタを入れ込めたので
嬉しかったです。



パシャッ☆　パシャパシャパシャッ☆
ふふ…かわいいっ♪　ほら、いつきちゃんの女の子の部分…
恥かしいトコまで全部撮ったよ♪
はぁ・はぁ…恥かしいっ……けど…カワイイって言われるの、すっごく嬉しい…♪
じゃ、もっと…恥かしくて、かわいくて、気持ちよくなっちゃうコト、する？w
うん……するぅっ♥

☆カクガリ兄☆

今年は久々に猛暑が続いている中、
コミケ当日の事を考えると戦慄を覚えずには
いられません……

さて、今回のネタ「ハートキャッチプリキュア」は
弟的には作画しづらい様で申し訳なかったんですが
放送開始から気に入った作品で、
夏以降の追加メンバーに関しても

何かやれたら良いな～

とは思ってるんですが。

まぁあと今年は猛暑でバテバテだったので
今からコミケ当日が怖いですwww

では、またの機会に。

☆カクガリ弟☆

今夏は「トランスフォーマーアニメイテッド」と
「バットマン　ブレイブ＆ボールド」の新シーズンが
あるのでホクホクです。
好きなジャンルの作品が2本も見れるって
幸せモノですね。

トランスアニメイテッドでは数少ない女性ロボキャラ
ブラックアラクニアさんの、半分生命体なので
「痛い・寒い」という感覚があるという設定に
少なからず興奮してしまったりw
いあ～、ヘンタイだな～♪　シヤワセだな～♪

まま、本編を楽しんで頂けたら幸いです。
ご購入、ありがとうございました。

←うろ覚えで描いたコッペ様「もののけバージョン」
ゴン太君的アレだよねと。兄とファミレスで打ち合わせ中に
描きましたが、設定見ると随分と違いましたとさw

☆Staff☆

カクガリ兄
カクガリ弟
（合わせて　カクガリ兄弟）

☆Presented　by☆
肉りんご（Beef&Apple）

☆Title☆
トーキョーキャッチー

☆同人誌印刷☆
PICO様
（今回もお世話になりました）

☆奥付☆
津島　大介

（ご意見ご感想・要望・お仕事などは下記にお願いします）

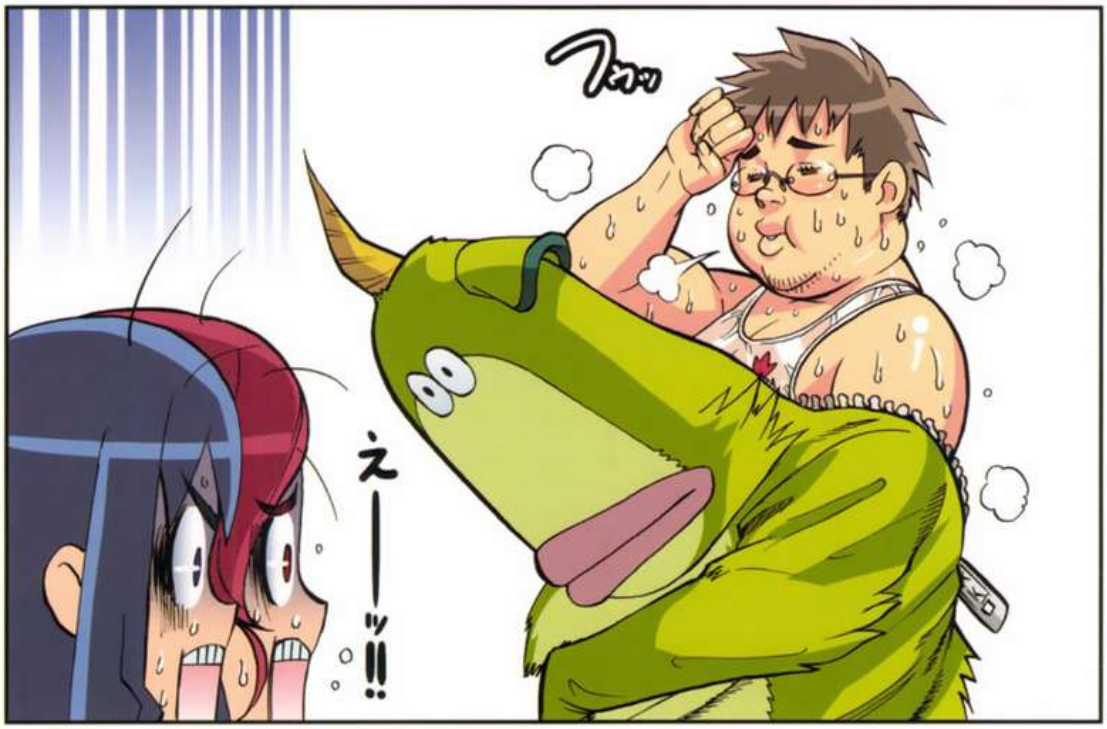
☆ホームページアドレス（ブログ）☆
http://kgbros.blog37.fc2.com/

☆メールアドレス☆
kgbrosbros@yahoo.co.jp

☆注意☆
本誌に記載する全ての図版・文章を、許可なく
複製・転載・ネットで公開及びアップロードする事を禁じます

Niku Ringo
(Beef&Apple)

トーキョーキャッチー



PRESENTED BY NIKURINGO